

# Double-Take®

## 導入事例：株式会社 秋村組 様

### 自らの手で、大地震からグループ全社のBCPを守れ!

滋賀県近江八幡から持続可能な社会の実現を目指す。このビジョンを掲げる秋村組 様は、AKIMURAグループというネットワーク企業体を牽引しながら、建設サービス(土木・建築・設計)から不動産開発まで、まちづくりをトータルに提案されています。地震の多い滋賀県において、数年前より自らの事業継続計画「BCP」への取り組みを開始。Double-Takeによって、本社の被災に伴うOBIC7exベースの基幹システムデータサーバの保護復旧と、各グループのファイルサーバのデータ保護を、ご自身の手で短期間で構築することに成功しました。

#### 株式会社 秋村組 様 (AKIMURAグループ メイン会社)

本社:〒523-0892 滋賀県近江八幡市出町170番地

事業所:京都1ヶ所、滋賀6ヶ所

創業:1940年5月

従業員数:67名(2006年12月現在)

事業概要:建設サービス:土木工事(道路、下水道、トンネル等の生活インフラの構築)、建築工事(戸建住宅、マンション、店舗、オフィス、公共施設等のデザインおよびトータルプロデュース)



株式会社秋村組 経営業務部  
情報システム室 室長 上田幸司 氏



本社サロン「be-bee」

#### 導入背景

#### 琵琶湖西岸断層と花折断層。その連鎖はBCP最大の危機!

秋村組 様は、様々な調査機関から発表されている滋賀県の大震災発生の可能性について調べ、その結果過去に発生した大地震では、京都の花折断層北部を中心に琵琶湖西岸断層系が連鎖して動いた可能性が大きいことがわかった。「現在地震が発生すれば、被害は阪神・淡路大震災を超えることが予測され、当社のある近江八幡地域も大きな被害を受けることがわかりました。そこでBCP専門チームを発足し、社長のトップダウンでグループ企業全体の事業の継続を目的としたDR (Disaster Recovery 災害対策) に着手したわけなんです」と語る情報システム室 室長の上田 氏。秋村組を中心としたAKIMURA

グループは、インターネットの黎明期からIT投資に取り組んできたこともあり、グループ企業はもちろん取引先とも完全に電子化されたネットワークが構築されている。それだけに、万が一滋賀の本社が地震で倒壊し、基幹系を含むサーバが停止した場合には、企業としての信用失墜と存亡にかかわるという危機感が高かった。また、今後も拠点の増加や関連会社の新設が想定される成長企業のため、できれば自分たちの手で必要なときに必要なだけ、低コストでスムーズに拡張できる災害対策が理想であった。

#### ■AKIMURAグループ全体のBCP戦略の一環として災害対策に着手



## お客様ニーズ

### サイトとサーバの2重の災害対策を桁違いのコストで!

以前から上田氏は遠隔地へのバックアップの必要性を感じ、情報収集や見積もりをとっていたという。「主だったデータセンターさんに相談したところ、本社のサイトダウンと基幹系のサーバダウン、グループ企業のサーバダウン、および災害時の対応策を合わせると軽く年間1000万円を超えたわけです。しかし、うちではそこまでの費用はさけません。もう少しなんとかならないだろうかと探していましたら、Double-Takeの存在を知ったわけです」。秋村組様が運用されているのは各種Windows

サーバであるが、それら全てをバックアップできるのは、Double-Takeであった。詳細について、OBIC7exをベースに基幹系を構築してきたオービックに相談したところ、Double-Takeなら低価格で、しかもリアルタイムにデータのレプリケーションがとれるうえ、日本国内でも実績No.1であり、まさに理想のBCPツールであるという結論に達した。



株式会社秋村組  
経営業務部 情報システム室  
室長 上田幸司氏

## ソリューション

### OBIC7exの基幹系から各拠点サーバまでバックアップ

秋村組様では、OBIC7exをベースにした基幹システムを運用し、そのシステムと取引先とはインターネット上で請求のやりとりをする“Net-びる”という仕組みを構築している。取引業者から請求データが入力されると自社のシステム内で検収され、そのまま支払いを起こせるものだ。さらに本社には、ノーツのグループウェアサーバ、ファイルサーバがあり、いざというときのためにこの4つのサーバの保護が必須であった。具体的には、いったんDouble-Takeでバックアップをとるサーバを本社内に1台設置し、そのデータをA拠点に設けた保存用サーバに常時レプリケーションしている。各拠点や支社からは直接保存用サーバに

データが送られる。「A拠点はテナントビルになっていまして、本社の人間にビルの耐震強度を確認してもらい、これなら大丈夫だ!ということでDR拠点に選んでいます」と語る上田氏。さらにこのA拠点内には、緊急用としてVMwareを使った仮想サーバも用意し、本社の4つのサーバ環境をこのサーバ内にあらかじめ構築してある。本社が地震で倒壊したとしても、レプリケーションデータを仮想サーバに移行すれば本社機能を復旧することができるもので、Double-TakeはVMwareにも対応しているため、構築が非常にスムーズであった。

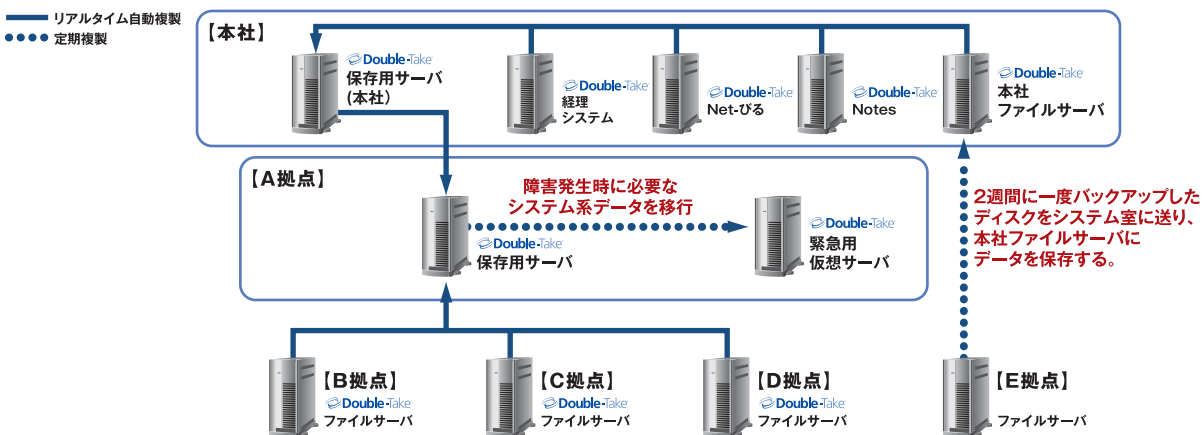
## 導入プロセスと展望

### お客様自らDouble-Takeのシステムを数日で構築!

「私たちは、設定方法の説明として1日とっていたんですが、伺ったときにはもうインストールも終わっていて、設定もほとんど完璧でした。お昼過ぎには“もうやることないですね”と上田さんとお話して帰社したんです」と話してくれたオービックのシステム担当者。実際、上田氏は2、3日だけDouble-Takeのマニュアルに目を通し、インストールしてから稼働

するまで半日もかからなかったという。今後新たにグループ企業が増えた場合でも、1台サーバを追加して設定していくだけで、何百年に一度の災害に対処した事業の継続が可能になる。それはまさに、IT投資の理想的な姿だと言えるだろう。

### ■Double-TakeによるAKIMURAグループ全体のBCPシステム



古紙配合率100%再生紙を使用しています R100 環境にやさしい大豆インクを使用しています SOYINK  
※本カタログに記載の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。(2007.9)

●お問い合わせは

伊藤忠テクノソリューションズグループ  
**CTCSP**

シーティーシー・エスピー株式会社

本社：〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-16-7  
TEL.03-5712-8071 FAX.03-3419-9679  
http://www.ctc-g.co.jp/~ctcsp/  
✉ sp-admin@ctc-g.co.jp

・総機：TEL.03-6203-5535  
・大崎：TEL.03-6417-5950  
・名古屋：TEL.052-203-2239  
・大阪：TEL.06-6151-8860  
・福岡：TEL.092-734-6251

国内販売代理店

開発・製造元

Double-Take  
Software